

## 第8回 昭和の森親子田んぼ教室 田んぼの草取り

佐野 由輝(大網白里市)

日 時：2019年6月23日（日）9:30～12:00 天候：晴れ

参加者：16名（大人8名、子ども8名、5家族）

担当指導員：岡田富子、佐野由輝、花島伸美、山下美佐子、山田益弘、

昭和の森管理事務所所長、所長補佐

今日は、昭和の森の田んぼで、親子田んぼ教室。親子で汗を流しながら、草取りをしました。

まずは、雑草がはびこり始めた田んぼを観察しながら、草取りをする必要性をみんなで考えました。早速、子どもたちから手が挙がり、「草が稻の栄養分をうばうから」、「稻より大きくなつて、光合成の邪魔をするから」、「草が水面に広がると、水の温度が下がるから」と、上級生を中心に、次から次へといろんな意見が飛び出しました。もちろん、全て、正解です。

続いて、稻の成長を測定しました。今年は、例年に比べ涼しい日が続き、4月に植えた苗の生育にも影響がないかと心配でしたが、草取りの前に、株数を数えると、4月には3株程度だったのが、15株に増え、苗高も20cm程度だったのが60cmを超えるまでに成長していました。まずは、一安心ですね。さて、みんなで、田んぼの中に入り、草取りを始めたのですが、昨年と比べて、雑草の数も少なく、天候の影響は、稻よりも雑草に与えたようですね。しかしながら、見た目は小さな草に思えても、意外としっかりと泥の中に根を伸ばしているのもあり、最初は悪戦苦闘していました。それでも草取りを初めて30分も経たないうちに、田んぼはすっかりきれいになり、稻がのびのびと太陽に向かって、葉っぱを伸ばしていました。これで、日光をたくさん浴びて、おいしい稻穂を実らせてほしいですね。

さて、親子が協力して取り除いた草をブルーシートに並べて。種類を数えると、全部で15種類。思ったよりたくさんの種類の雑草が、田んぼの中で稻と競争していることに、皆さん、驚いていました。その中には、セリ、ドクダミ、イ、マコモなど、生活の役に立っていた植物もありました。昔の人は、雑草の中からも、生活の役に立つ植物を見分け、利用していたことを伝えました。

草取りの後は、田んぼの生き物観察です。子どもたちは、田んぼの中をのぞき込み、網を突っ込んで、夢中になって生き物を探していました。捕まえた生き物を水槽に入れ、みんなでミニ水族館を楽しみました。4月はカエルの卵や産まれたばかりのオタマジャクシが多かったのですが、今回は、やっと、手足が出てしつぽがなくなつたばかりの子ガエルがたくさんいました。このほか、ホタルの幼虫のえさであるカワニナやメダカ、アメンボ、ヤゴもたくさん見つけ、子どもたちも興味津々に水槽の中をのぞき込んでいました。

最後に、捕まえた生き物を田んぼに戻し、秋の稻刈りまでに、稻がすくすくと成長してくれるることを願いながら、お別れしました。

